

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 語彙スキル | 会話術の焦点 (6)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

会話術の焦点 (6)

第5章 ボディランゲージを使う

一言も発しなくても、語り手の態度というものは、聴き手に対してさまざまなメッセージを与える。言葉で聴き手を引きつけることができると同時に、体で聴き手をつなぎとめることができる。「姿勢」「ジェスチャー」「顔の表情」を通して、語り手は途方もない力と情熱を話に加えることができる。

「姿勢」は、ボディランゲージの3つのテクニックのなかでもっとも重要だ。立ち方ひとつで、語り手は聴き手に対して良い印象も、悪い印象も与えることができる。それは、聴き手がどのように話し手を受け入れ、反応するかにも影響する。

語り手は常に聴き手より高い位置にいて、すべての聴き手から見えるようすべきだ。もし聴き手から見えない位置にいたときには、語り手自信が動くか、聴き手に動いてもらい、いつでもアイコンタクトできるようにする。

座る

座っている方がリラックスできる語り手もいるが、決して机やテーブルの後ろに座ってはいけぬ。語り手と聴き手に距離ができてしまい、親密感が損なわれる

立つ

立つ方が効果的だ。立っていれば動くことができる。聴き手に参加してもらうときや見せ場では、聴き手に近づくことができる。演説台や机の後ろに立つのも好ましくない。

ひざまずく

聴き手が床に座っていたら、語り手はひざまずくべきだ。そうすれば語り手が聴き手に対して高すぎることはない。見えづらいうと聴き手が語り手に対する興味を失ってしまう

姿勢を変える

姿勢を変えることは聴き手の興味を喚起する。もし語り手がプレゼンのはじめは座っていたのに突然立ち上がったなら、聴き手は驚く。立って動いている姿勢から突然座ったときも同じことがいえる。しかしあまり上がり下がりを繰り返さないほうがいい。単調になると効果を失う

2番目に重要なのは「顔の表情」だ。

言葉の意味が顔に反映されると、言葉に説得力が加わる。

顔に話をさせてあげよう。

死に関して話しているときに終始ほほえんでいたらどうだろうか？

3番目に、意味のある単純なジェスチャーが語り手の言葉に力を与える。

手に話をさせてあげよう。

手で感情を表現しようとすれば、顔の表情が自然についてくるはずだ。

「恐怖」「憎しみ」「欲求不満」「驚き」「不安」「満足」「希望」「怒り」「愛」「いらだち」「喜び」「恥ずかしさ」「嫉妬」「悲しみ」「ばかげたこと」「軽率」…これらの感情表現を練習しよう。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE 【ワーカーズ・ライブラリー】

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.